

道岳連だより

広報 NO.90
令和3年1月5日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

新年のあいさつ

北海道山岳連盟会長 小野 倫夫



北海道山岳連盟会員とご家族の皆さんあけましておめでとうございます。
令和3年をいかがお迎えでしょうか。

コロナのため家族がそろわない、あるいは自粛ムードで例年とは違ったお正月となったのではありませんか。

去年は、コロナに始まりコロナが収束しないまま、年を越してしまいました。

道岳連は令和2年度行事、事業の多くが中止、延期となりましたが、年度後半は可能な限りの方策を取り実施に努力します。

60周年を迎えた日本山岳・スポーツクライミング協会（日本山岳協会から改称）もオリンピック延期、国際大会経費処理、五輪選手選考枠など諸々の課題を抱えました。

実は私、昨年2月2週間ほど、フランスでスキー旅行をして帰国の羽田ではあまり緊張感はなかったのですが、その後の感染流行についてはご承知の通りです。

人類は過去にペストや梅毒、天然痘、結核、スペイン風邪、インフルエンザ、エイズ、エボラ、サーズ、マーズなど目に見えない相手と戦って克服してきました。今、世界中の研究がワクチン開発へ急ピッチ、早ければ、今春には日本でも接種可能と言われていきますので、正に今が正念場です。三密を避け、ソーシャル・ディスタンスを取り、マスクの着用、手洗いの励行など自己防衛策を取り「普通の平常」に戻れる努力をしましょう。

幸い登山はアウトドアなので、密を避けることができる活動です。

冬のハイシーズンの今、例年起きる登山やスキーでの遭難事故に十分注意しながら楽しみましょう。

終わりになりますが会員各位、ご家族のご健勝を祈念して年頭のあいさつとします。

2020「山の日」記念登山

本年で「山の日」が制定されて5年目となる。日本各地でこの記念日に催しが実施され、登山を楽しむ愛好者も多数見られる。

北海道山岳連盟もこの日を記念して、例年一般の方々の山登りへの関心を高めるべく加盟団体へ公募登山、市民登山等の実施を呼びかけている。残念ながら今年は新型コロナウイルス感染症により、登山も新しいスタイルを守って登る状況が続いている。

そんな中で次の6団体が記念登山を実施しており、道岳連ホームページに報告を掲載した。

1. 暑寒別岳（釧路山遊会）
2. 斜里岳の山小屋 清岳荘（管理人 増子麗子）
3. 斜里岳（クーラカンリ）
4. 羊蹄山（遊悠倶楽部）
5. 室蘭岳（室蘭山岳連盟）
6. 北山、北山南峰（登別嶺友会）



日高登山研修所閉所



日高町の千栄中学校閉校校舎と旧職員住宅を道岳連が借受け、研修・宿泊施設として利用してきた「北海道山岳連盟日高登山研修所」は、令和2年度をもって閉所し、返還する。

研修所は、平成11年(1999)6月に開所し、道岳連事業や研修で多くの加盟団体や会員に利用されてきた。しかしここ数年は施設の老朽化や利用の減少で施設の維持管理に見合う収入を見込めないため、

道岳連総会で今年度をもっての閉所が決定していた。10月に備品等の運び出し、廃棄などの片付けが行われた。11/7-8には研修所納めと兼ねて閉所式を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の北海道内感染拡大により中止となった。

行事・各種事業報告

令和2年度 行事・各種事業のうち 新型コロナ関連で中止・延期となったもの

※「道岳連だより No.89」掲載漏れ及び掲載以降の行事・事業

第7回 ユニフォーム・ツライミツ 奈良杯

令和2年6月16日（競技委員会）

第75回国体北海道予選会 兼 JOC ユニアリビリティカップ 北海道選手権大会	令和2年8月1-2日(競技委員会)
第75回国民体育大会(鹿児島国体)	令和2年10月4-6日(日山協)
第2回理事会	令和2年10月11日 書面会議
第19回 山・つらみツカ 北海道選手権大会	令和2年11月1-15日(競技委員会) 延期
日高登山研修所納め	令和2年11月7-8日(研修所運営委員会)
冬期遭難対策研修会	令和2年12月5-6日(遭難対策委員会)
山岳スキー指導者研修会	令和2年12月19-20日(指導委員会)

第2回 理事会（書面会議） 10/11

道岳連第2回理事会は、コロナ禍に伴い第1回同様に書面での会議となった。提案された議案は、1号議案 令和2年度前期を振り返って 令和2年度前期事業を振り返って 2号議案 令和2年度前期事業報告について 3号議案 令和2年度後期事業予定について 4号議案 備品報告書(備品台帳) 5号議案 各種議題 1.安全登山シンポジウム 中止 2.全道交流登山登別大会(8/29-30) 中止 3.令和2年度安全登山研修会(9/19-21) 中止 4.トレイルランニング大会(9/21) 中止 5.全日本登山大会千葉大会 中止 6.国民体育大会鹿児島大会(10/4-6) 中止 7.研修所納め案内(11/7-8) 8.第5回山の日記念登山。

1号議案 1.令和2年度前半を振り返って 令和2年10月11日 理事長 明田 通世

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)発生により社会全体が大きく変化し、その対策に多くの労が費やされてきました。道岳連行事も総会、理事会等が異例の文書開催に終始することになり、全道交流登山、アウトドアフェスティバル、各委員会行事もほとんどが中止(延期)に追い込まれてしまいました。その中で普及委員会、競技委員会はガイドラインを遵守し活動されています。

○道岳連の行事に関すること

- ・「山の日」事業「ふるさとの山に登ろう」をキャンペーン。
山岳会(連盟)毎に山を選定、7月11日～9月11日の期間に登山を行う。
(期間が多少ずれても可、冠に「山の日記念」「ふるさとの山に登ろう」として企画)
会員だけでなく一般にも呼びかけ、市(町・村)民登山会を企画・普及する。
- ・ホームページを利用して事業の大半を周知、報告等を発信していますので利用をお願いします。
また、HPのカレンダーへの写真データの投稿をお願いします。
- ・リーフレット(2000部)を作成し、未組織登山者に安全登山啓発、道岳連事業等を周知している。

○事業運営について

1. コロナ対策を万全に実施して、粛々と登山活動を継続していただきたい
2. 若年層登山者の会員増加をすすめたい
 - ・アルパイン的登山に道岳連内で横断的なチーム造りを提起しましたが、軌道に乗らない。試みとして拡大合同登山会をしましたが、令和2年度は実施に至ってない。登山とアルパイン派に刺激を与えなお継続に向けて各団体に一層の協力をいただきたい
3. 社会的要請への対応
 - ・東京オリンピックも延期となり、先行き不透明感が残ります

※1号議案以降の内容掲載は割愛しますので、加盟団体配布済の理事会議案を参照願います。

登攀技術研修会 10/10 赤岩(小樽)

令和2年度登攀技術研修会・・・安全安心な登攀技術の習得を目的とする。

開催日 2020年10月10日(土)

研修会場 赤岩(小樽) 集合場所 赤岩峠 駐車帯

スケジュール 7:00 スタッフ集合(ミーティングとロープのセット)⇒7:30 受付 ガイダンス～ストレッチ運動～移動(奥リス)

8:30 技術研修 1班→トップロープとリード 確保技術(トップの確保・セカンドの確保) 2班→ロープワーク(フリクションノットの特徴と用途)

岩場での自己脱出

11:30 2班→トップロープとリード 確保技術(トップの確保・セカンドの確保)

1班→ロープワーク(フリクションノットの特徴と用途) 岩場での自己脱出

12:30 1班、2班→懸垂下降のバックアップ手法 14:00 解散

携行品 筆記具・登攀に適した服装(防寒対策)・装備を準備してください。

ハーネス・ヘルメット・確保器、環付きカラビナ・カラビナ・スリング・クライミングシューズ・確保用グローブ

リード希望者は感染症予防のためマイロープ、クイックドロウ、ナッツ類を持参

参加者 10名+スタッフ5名

コロナ対策 参加者、スタッフ全員の1週間前からの体調チェック表の提出

当日全員の体温チェック、研修会場に消毒液、除菌ケアシート用意し都度使用する

【密(密集、密接)回避について】

○ 登攀中および休憩時は距離を確保し行動する。また、安全性が高くセルフレスキューが容易な既知のルートを選定する。

【感染症対策】

○ 主催者はマスクを着用し、応対する。

○ 研修会場には消毒液、ペーパータオル等を設置した。

【参加についてのお願い】

○ 研修会開催1週間前から当日までの体温や体調を指定用紙に記録し、提出した。発熱や咳等がみられた参加者無し。研修会中も体温チェックを聞き取り対応する。

○ 新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい基礎疾患(糖尿病、心不全、呼吸器疾患、高血圧、透析、免疫抑制剤や抗がん剤等使用者等)を持っている方は、参加前(申込前)に医師の判断を仰ぐ。

○ 研修会終了後、2週間以内に新型コロナウイルス感染が確認された場合は、必ず主催者に連絡するようお願いした。

○ 密を避ける観点から募集定員を削減した。定員10名とした。

○ 天候に恵まれ予定どおり実施する。

スタッフ 村中 順一 本宮 敬士 今野 聖二 加藤 陽子 明田 通世



受講者感想

研修会に参加して 田 中

これまでの登攀は個人に連れられての実践的指導のみで体系立てて指導された経験はなく、今回講習会開催の情報を聞いて、貴重な機会だということで参加させて頂きました。

開催地は小樽赤岩。今年2月に千葉から北海道に転勤してきた身のため、そもそも北海道にクライ



ミングのイメージが薄く、ピンと来ていませんでしたが、駐車場の車とゲレンデマップを見て「聖地なんだな」と実感、ワクワクしました。

講習会内容はビレイヤーの自己脱出と、トップロープでの登攀および懸垂下降での帰還。自己脱出の手順は初めて習いましたが、煩雑で、一度で覚えるのは難しい。しかし、それぞれの手順や結び方には意味があり、誤ると重大な事故に直結することが理解でき、定期的に講習や実戦で手を動かして覚える必要があるなと思いました。

登攀自体はかなり久しぶり、かつクライミングシューズがなかったこともあり苦戦しました。同じルートを2回登りましたが、1回目の後に重心移動や、手足を伸ばし切らないこと等々のアドバイスを頂いたため、2回目はかなり楽に登れた感触があり、うれしかったです。

全体を通して、やはり登攀技術は定期的に回数を重ねることが重要だと感じました。今後もこのような機会があれば積極的に参加し、総合的に山岳スキルを高めていこうと思います。

改めて、このようなご時世の中で講習会を開催して頂いた運営の皆様感謝を申し上げます。
ありがとうございました！

夏山講習会 Part2 9/5-6 ニセイカウシュッペ山・緑岳

日 時 2020年9月5日(土)～6日(日)

宿泊場所 層雲峡オートキャンプ場 バンガロー

参加者 一般6名 個人会員10名 山岳会5名 スタッフ5名 合計26名

報告者 普及委員会 細木 輝雄

行動記録

【9月5日(土)曇り／雨 ニセイカウシュッペ山】

8:00 上川駅集合⇒出発 8:30⇒登山口駐車場 9:10
⇒登山開始 9:20⇒大槍⇒ニセイカウシュッ山
頂上着 13:00-15⇒登山口駐車場着 15:30⇒上川駅⇒
黒岳の湯⇒層雲峡オートキャンプ場 18:00⇒夕食・
懇親会⇒消灯 22時

8時に参加者の皆さん全員集合、函館から毎回参加のSさんの車が調子悪くて急遽帰る事になりとても残念！開会式後、8時30分に各自スタッフの車とジャンボタクシーに分乗して出発、長い砂利道は一部際どい所もあって、注意して走り9時に登山口駐車場に到着する。4～5名の班に分かれてガ



スの中 9 時 20 分に出発、蒸し暑い森の中を進み尾根に出る頃には雨が降ってきて雨具を着る。

相変わらず一面ガス模様で、迫力ある大槍や表大雪が見えず物足りない登りだが、13 時にニセイカウシュッペ山頂上(1883m)に到着。全員揃った所で記念写真を撮り早々に下山開始、雨の降る中 15 時 30 分に登山口駐車場に着き、来たときと同じ車に分乗して上川駅まで戻ってから層雲峡黒岳の湯に入り、本日の疲れを取って、層雲峡オートキャンプ場には既に暗くなった 18 時頃に着いた。

全員で豪華夕食の焼肉パーティーに突入、事前にいつもこの準備をしてくれているスタッフに感謝、感謝です。

【9 月 6 日 (日) 晴れ/曇り 緑岳

4:00 起床・朝食⇒5:20 オートキャンプ場出発⇒6:20 高原温泉登山口駐車場⇒6:40 登山開始⇒7:40 第一お花畑⇒10:00 緑岳頂上着⇒10:30 下山開始⇒12:30 登山口駐車場着・閉会式・解散
4 時起床、昨日とは打って変わって天気が良く朝食を早めに済ませて、5 時 20 分に各自の車と乗



緑岳頂上

り合いの車に分かれて出発、登山口の高原温泉に 6 時 20 分到着する。さすがに有名所で次から次へと登山者を乗せた車が上ってきて、広い駐車場はあーという間に満杯状態になる。

準備体操後の 6 時 40 分に緑岳に向けて出発、昨日の疲れかそれともアルコールの飲み過ぎか？

登りだしのほぼ直登に近い階段は足に効くー！ 1 時間ほどで第一花畑に着きここで休憩

タイム、お風呂好きの女性軍はここで引き返す事になった。残りの意欲ある女性達と男性軍は、ここから秋晴れの迫力ある緑岳を目の前に、第二花園からさらに進むと、登山道は大きく左に曲がってハイ松の中に入り、いよいよ頂上につながるジグザグの岩れきの急登が待ち構えていた。周りの景色を少し楽しみながら何とか辛抱して登ると、10 時に展望の開けた緑岳頂上到着。

登山客で賑わう頂上で 30 分程休んでから下山開始し、何度か休みながら噴煙が上がる登山口には 2 時間ほどで到着。閉会式後いつもの一本締めで解散となりました。

参加スタッフ 横山 温 橋本一郎 立花 昇 横山泰子 細木輝雄

受講者感想

森 田

今からもう 5 年以上前になると思うが、北海道山岳連盟の登山講習会に参加し、ニペソツ山やチロロ岳、さらには十勝岳新得コースを登ったことがある。その後は旅行も兼ねて登る本州の山が楽しくて、単独だったりツアーに参加したりで、北海道の山とは縁遠くなってしまった。

ところがこのコロナ禍である。ツアーは軒並み中止、山小屋も閉鎖、さらにこんな状況で感染者の少ない北海道から東京や大阪の人口密集地を經由して山に行くまでもあるまい。

そんな中、地元紙に「洞爺湖中島に登ろう」と室蘭山岳連盟の市民登山会の記事が載っており、参加して一日楽しくすごした。その時頂いた資料の中に、お馴染み縦長四つ折りの北海道山岳連盟のパンフがあった。開くと以前から行きたかった「ニセイカウシュッペ」と「緑岳」の連泊登山講習会があった。早速申し込んだのは言うまでもない。

さて、迷ったのが前泊をどうするか。案内にはスタッフの皆さんもキャンプ場に前泊するとある。が、最後にテン泊したのはいつだったか思い出せない。ニセイカウシュッペ下山後は全員でテン泊とあり、二日続くのはちょっと辛い。考えた末、高速道路で20分の所の比布町に前泊することにした。さらに2日間の日程を終えたあと、せっかく遠くまで行ったのだからもう一座挑戦したい気持ちがむくむくと湧いてくる。当然単独登山になるので難しい山は避けたい。そうするとさらに遠くなるが、以前に体調不全で途中撤退した雌阿寒岳が頭に浮かんだ。ここまで決まれば阿寒温泉にも宿をとり（二泊とも凶らずもGoTo キャンペーンの恩恵を受けることになった。）さらに高速道路の4日間乗り放題の申込みをして用意は万端である。

さて、夏山講習会前日の9月4日、どうも天候が怪しい。高速道路上も降ったり止んだり比布町に到着、宿で休んでいると「ゴロゴロ」と雷が鳴る。雨中登山も覚悟して就寝する。

9月5日、上川駅前に集合、室蘭市民登山会でお会いした横山さんご夫妻から声を掛けられまずは安心。自分の車は駅の駐車場に置き、私は横山さんご夫妻の車に同乗し、残りの参加者もスタッフの車に分乗か事前に手配されたジャンボタクシーで長い長い林道を走り登山口に到着する。天候は相変わらず小雨が降ったり止んだりの繰り返しである。登り始めはゆるやかな登りが続く。晴れていれば左には天塩岳、右手には大雪の山々が眺められるはずであるが、あいにくの小雨模様、時に雲の切れ目から秋の気配が漂う溪谷が見える。霞んだ行く手に大きな岩稜が見えてくる。これが「夏山ガイド」にあった大槍らしいが全貌は確認できない。十分な休憩時間を取りつつ3時間で広い山頂へ到着した。不思議なことに頂上の標識のある所からやや高く見えるピークがもうひとつ、踏み跡もついているが、そこは団体行動なので自重する。やはり小雨模様の中、下山。登り始めは優しく感じたゆるやかな登りは、長くて単調な登山道となった。再び、上川駅前に一度集合した後各自の車で今夜の宿泊先である層雲峡オートキャンプ場へ向かう。

層雲峡オートキャンプ場はピカピカの調理場コテージであった。その日の登山で消化したエネルギーを補うに十分な食事と、懇親を深めるに十分な飲物が準備され、明日に備え早めに就寝した。

9月6日。朝食と後片付けの後、緑岳登山口である大雪高原温泉へ各自の車で向かう。駐車場でそれぞれが簡単なストレッチの後、出発。アカエゾマツの森の中のやや急な登山道を登る。二日続けての登山は今年になって初めてで、そのせいか早くも息がきれてくる。やがて登山道は見晴らしの良い台地へと出ると第一お花畑へと到着する。もちろん花の盛りではないが、羽毛状になったチングルマとリンドウとおぼしき紫の花が迎えてくれる。登山道は第二花畑を経由し、頂上直下のゴツゴツとした大斜面をジグザグと登る。ここで私のペースはグッと落ちてしまう。リーダーにお願いをしてマイペースで休み休み登ることにした。やがて後発の女性グループに吸収されつつなにか一緒に頂上に到着。眼下には高根ヶ原が広がり、そこから急な斜面を下ると大雪高原の沼がぼつぼつと見える。さらに雲の切れ目からは忠別岳の特徴ある稜線が見える。残念ながらトムラウシまでは確認できなかった。



高根ヶ原～化雲岳を背景に緑岳を登る

緑岳の標高2020メートルは標高年であるが、標識はなぜか2019メートル、帰宅後確認すると「夏山ガイド」では2019.9メートル、パソコンの地図でも同様、四捨五入でよいと思うのだが。例によって記念写真撮影のあと下山するが、私の足取りは重い。少々遅れながら転倒しないよう慎重に一步一步下り、高原温泉の駐車場に着く。解散式の後、私は次の宿泊地である阿寒温泉に車を走らせる。疲れているのでいつもより休憩回数を長く取り、予定の阿寒温泉に到着。温泉で疲れを癒やし



大雪高原山荘前で

安全登山講習会に関係のないことに文面のかなりを割いてしまった。今回を含めて私は道岳連の講習会に参加し、5座ほど登らせていただいた。文頭に書いたとおりコロナ禍で登山のスタイル（そんなに大したものではないが）を変えざるを得なかった中で、今回の企画は大変ありがたいものだったし、今後も機会があれば参加させていただきたいと思っている。

翌日に備える。就寝前、今日の疲れがどの程度残っているか不安になるが、途中撤退もやむなしと思うと気が楽になる。

9月7日、雌阿寒岳は霧に包まれている。登り始めると意外と疲れは感じない。何も見えない中、噴気孔からの「ゴウゴウ」という音が聞こえる。ほぼ予定通りのタイムで頂上到達、出立前は阿寒富士に寄ることや、オンネトーコースで下山することも考えていたが、霧の中ですっぱりあきらめはついていた。登山口から帰路についた。

受講者感想

中野

2日間の講習会、細かなお心遣いを含め指導いただき有難うございました。久々に雨模様の中を歩いたニセイカウシュッペ山、最近では晴れの日を選んでの山ばかりだったので、雨対策の装備等の良い再確認になりました。

緑岳の岩場では遙か沢沿いにクマの親子が水を飲みにやってきた様子が見え、メンバー一同感動しました。本当に楽しい2日間でした。また冬に参加の機会がありましたら、よろしく願いいたします。

自然保護指導員の集い 10/17-18 歌オブナ林・黒松内岳

北海道山岳連盟自然保護委員会が主催する「令和2年度 自然保護指導員の集い」は、10月17日(土)～18日(日)の二日間にわたり「ブナ北限のまち」後志管内黒松内町を会場に、現地講師2名と全道各地から26名の会員が参加して開催しました。

フナってどんな木？

ブナは温帯を代表する樹種で、日本では鹿児島県大隅半島を南限に、主に東日本に分布しています。

北海道では渡島半島のみ分布し、寿都と長万部を結ぶ「黒松内低地帯」を北限として、本州から連続的に分布してきたブナの森が途切れます。ここから北には北海道特有の森「針広混交林」（針葉樹と広葉樹が交じる森）が広がります。



道内に眠る有形・無形の財産の中から、次の世代へ引き継ぎたい北海道民全体の「宝物」という意味を込めた取り組み。平成16年11月「北限のブナ林」が、北海道遺産の一つに選ばれました。北限という特殊性だけでなく、ブナ林を生かしたまちづくりなど地域の「思い入れ価値」が高く評価されました。

日本の森林を考える上で重要なこのブナ自生北限地帯を代表する森として「歌オブナ林」は昭和3年、その価値を見いだされ、国の天然記念物に指定されました。

以来、ブナの森は町民有志や学術的価値を知る学者達に守られ、静かに時を過ごしていましたが、指定から60年を経た昭和の終わり、各地でまちづくり運動が盛んに繰り広げられ、黒松内町でもブナを題材にしたまちづくり「ブナ北限の里づくり」をスタートしました。

1日目 … 13:00 黒松内町ブナセンターに集合。開会式、講師紹介の後、全員でブナセンター内部の見学です。ブナに関する各種資料やブナ材でできた手回しオルガンの音色を楽しんで、歌オブナ林駐車場へ移動します。

町教育委員会学芸員の齋藤均講師は、歌オブナ林の成り立ちや特徴、学術的価値を入林前に解説、



ブナセンターで開会式

明治以降の開拓期に燃料として各地でブナが伐採し尽くされる中この地を訪れた林学博士新島善直は「このようなブナの原生林が残っているのは奇跡のようだ」と述べたと伝わっていること、1928年(昭和3年)歌オブナ林は国の天然記念物に指定されたことなども説明しました。

ブナ林入口から遊歩道終点までは片道1.2kmほどで、高さ30m、幹の太さ1mにもなるブナの大木が頭上を覆う風情は、訪れる人を癒し魅了し続けているというのがよく理解できます。ブナ林散策後は今夜の宿舎「歌オ自然の家」へ再

び移動します。夕食までの室内研修は、道岳連小野会長、後援をいただいた室蘭山岳連盟駒込会長の挨拶で開始、前段のブナ林観察を踏まえた齋藤講師による講義が行われました。写真や山歩きが大好きという講師の映像や体験を交えた話を参加者は熱心に聴き入っていました。その後の夕食・交流会では、黒松内に居を構える辻野常任委員の司会進行のもと親睦を深め、21:00過ぎに就寝となりました。

2日目 … 昨日に引き続き晴天です。本日登る黒松内岳(740.0m)の登山口駐車場は狭く、林道近くのパークングエリアで乗り合せします。登山口までの林道は5kmですが、狭隘で対抗車とのすれ違いには苦労しそうです。

登山口の標高は200m、9時少し前に登山開始、多少急な斜面を登ると踏み跡が分かれており、往路は右手に入り、やがて沢沿いにはブナの木が目立つようになります。地図上の528m標高点に達すると尾根に乗り、緩やかな歩道を進み7合目付近で黒松内岳が正面に望まれます。標高はさほど高くはないものの、急峻な尾根と谷を刻む堂々とした山容です。

8合目からは滑りやすい急斜面でロープが張られており、登下降ともこれを利用することになります。ここを通過すると待望の頂上に達し、北に日本海(寿都湾)南に太平洋(内浦湾)が望めます。また、東には羊蹄山、昆布岳、ニセコの山々、西には長万部岳、大平山など魅力溢れる山が連なっています。予定よりやや早く全員が下山すると、なんと、登山口駐車場が茶の湯の場に… 増子委員長が和菓子付きで抹茶を振舞う(呈茶)サービスをしており、参加者はより一層印象深い山行になったと思われま。

閉会式では、道岳連小野会長が今回の事業について講評し、過去からの自然保護委員会事業と比較し、企画・運営とも高いレベルにある旨の評価をいただいた。新型コロナウイルス禍の影響が残る中、参加者・スタッフの皆様、そして黒松内町の関係者の皆様大変お世話になりました。

(報告 自然保護委員会 内藤 美佐雄)



黒松内名水が有り、京都
で修業をされたと言う和
菓子屋さんが有りこれは
もう、抹茶を頂くしか有
りません。 増子・記

水…黒松内名水、抹茶…お詰 京都小山園 茶名…和光、季節の菓子…和生菓子すずや謹製 名…もみじ]

受講者感想

美瑛山岳会 本村

平成 26 年秋に東川町で開催した「道岳連自然保護指導員等研修会」で講師をされた辻野さんが、自ら整備した黒松内岳の現状を“熱く”語られ、いつかは現場を見たいと思っておりました。また、私たちのホームグラウンドの大雪山国立公園の森には自生しない「ブナ」に漠然とした興味もあり今回の参加となりました。

私が所属する美瑛山岳会の内藤さんが自然保護委員長をしていた時、スタッフとしてお手伝いをした経験から、今回も早くから計画・準備してくださった皆様のご苦労に思いをはせておりました。二日間の晴天は準備された皆様への何よりの報償ではなかったでしょうか。

歌オブナ林、念願だった黒松内岳登山では、登山道補修箇所の説明をしていただき、変化に富んだコースや素晴らしい展望も楽しむことができました。そして思いもよらない登山口でのおもてなし「野点」を自然の中で体験させていただいたことも、晴天でなければ思い出の色が違っていたかもしれません。

家に戻り“熱く”語られた講師お二人の熱気が冷めないうちに資料を見直しました。かつて、人々はブナの森の恵みを受けてきました。伐採の危機など価値あるブナ林が時代に翻弄されながらも、新島教授や地元住民の尽力により、原生林として今日まで守られています。「国指定天然記念物・ブナ自生北限の地黒松内」をより多くの方々に知ってほしいというお二人の熱気を改めて感じました。



7合目手前からの黒松内岳

森の深さを知り山に入ると山への畏敬の念が一層深まり、山の整備に関わると自然の力の大きさを、自然を学ぶと私たち人間は其中で生かされていることを知らされます。そんなことを再認識した研修会でした。

受講者感想

室蘭山岳連盟 会長 駒込

17・18日と自然保護指導員・集いでは、大勢で参加し大変お世話になりました。

増子委員長の気配りとやさしさ、そしておもてなしの心に感銘しました。辻野氏の巧みな話術で

沢山のことを学びました。

齋藤講師の貴重なブナの話。今回参加した室岳連の方々も勉強になったと思います。これを機会に自然保護の大切さ・現状を振り返る機会となり、普段の生活でも山登りでも活かしていきたいと思えます。本当に貴重な機会をありがとうございます。これからもよろしくお願ひいたします。

受講者感想

岩見沢山岳連盟（こぶし山岳会） 西村

黒松内研修はたくさん楽しく学習させていただきました。

一日目は齋藤さんの案内でキノコを横目に最北端のブナ林を散策。齋藤さんのお話で特に印象的だったのは、四国からブナの苗を求めて来た方々とのやり取り、それぞれの山がどんな植生で成り立っているのかを知ることが大切という話は感慨深かったです。

二日目は辻野さんから登山道整備の方法を聞きながらの黒松内岳登山。昔登ったことがありましたが、記憶とあまりに違い新鮮でした。そして下山後は山の中での本格的な野点にビックリ、麗子さんのお手前ステキでした。二日間有難うございました。

受講者感想

岩見沢山岳連盟（こぶし山岳会） 大江

10月17日～18日、二日間の自然保護研修参加させていただきました。以前から黄葉した最北のブナ林を見たいと思っていたのと、連れて行ってくれる仲間達がいたのが参加した動機です。

一日目は、齋藤学芸員のガイドで歌オブナ林トレッキング。ブナの樹皮は白く地衣類が付着しやすい、葉の則脈の入り方は他にはない特異的なことなどを覚えました。参加者の殆どがそうだったと思えますが、ブナの種子を初めて食べました。癖のないまあまあの味でした。歌オブナ林は山では有りませんが、それなりにアップダウンも有り山歩きの感覚でした。貫禄ある堂々としたブナ達が気持ちのよい空気を出していました。季節柄ブナハリタケ、ムキタケ、ツキヨタケなどのキノコ達もブナ林に彩りを添えていました。

研修後の交流会では地元のチーズ、ソーセージや巻き寿司など美味しいものと、参加者の皆さんが持ち寄った沢山の酒類が有りました。私は下戸ですが、山好きの人は酒好きが多いですわ!!



故佐藤健委員長が揃えたベストで集合写真

二日目は、辻野さんの案内で黒松内岳登山を行いました。ブナの並木道があったり、羊蹄山が見えたり、噴火湾と日本海の二海が見えたり、ロープ場が有ったりと、楽しくそして手応えたっぷりのイイ山でした。それに昨日は見るだけのキノコ達もここでは採取可能。下山後、紅葉の時期にぴったりの和菓子和抹茶が用意され、とても美味しく頂きました。二日間とも天気に恵まれ、楽しく過ごさせてもらいました。この研修会を準備し実行してくれた関係者の皆様に深く感謝します。

道体協選手強化・派遣業務・講習会 競技委員会

1. 選手強化(道内合宿・日帰り練習) 7/26 美唄市体育センター 選手9名 コーチ10名

- 選手強化(道内合宿・日帰り練習) 8/14 ウィンター・スノー・ゲーム 選手8名 コーチ4名
2. 日本ユース選手権ボルダリング競技大会・第21回 JOCジュニアオリンピックカップ大会派遣 中止
 3. JMSCA 公認ルートセッター・審判員資格更新講習会 6/28 札幌市あいあい会議室 参加6名
 4. 第1回リードクライミング講習会 6/9 美唄市体育センター 参加13名

今後の諸行事

氷壁技術研修会 (指導委員会・海外登山委員会)
令和3年1月9日(土) 日帰り NAKA 滝・パラグフォール他

冬山講習会 Part1 (基本編) (普及委員会)
令和3年2月6日(土)～7日(日) 五色温泉・ニセコアンヌプリ

山岳スキー(氷雪)技術研修会 (指導委員会・山岳スキー運営委員会)
令和3年2月13日(土)～14日(日) 会場未定

JMSCA スノークライミング部ブロック別研修会 (競技委員会)
令和3年2月20日(土)・21日(日) 札幌エルプラザ

山岳スキー技術検定会 (指導委員会・山岳スキー運営委員会)
令和3年2月27日(土)～28日(日) 日高青少年自然の家・日勝ピーク周辺

冬山講習会 Part2 (応用編) (普及委員会)
令和3年3月13日(土)～14日(日) 白銀荘・三段山・前十勝カバワラ尾根

山岳スキーツアー (指導委員会・山岳スキー運営委員会)
令和3年4月18日(日)～20日(火) 会場未定

第3回理事会
令和3年4月18日(日) 会場未定

★令和2年度第2回理事会議案の後期事業分について掲載、詳細は道岳連HP又は加盟団体配布の要項を確認ください。

道岳連だより 北海道山岳連盟広報 No.90 令和3年1月5日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-48

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄